

Sustainable Kyushu

さすてなぶる九州

株式会社 谷川建設 たにがわけんせつ
代表取締役

谷川 喜一氏

Kiichi Tanigawa

取引店／福岡銀行長崎支店
十八親和銀行本店営業部



「木を愛する」私たちがだからできること。 自然環境との共存を図りながら 持続可能な社会の実現に向け取り組む。

創業以来、家づくりを通じて人々に心のやすらぎを提案し、社会に貢献するという一貫した哲学のもと、株式会社谷川建設では、日本の伝統建築材である「檜^{ひのき}」をつかった家づくりを続けてこられました。

その理念に基づき、同社では、2020年3月から持続可能な開発目標であるSDGsの活動に本格的に取り組みべく、社内横断的にチームを編成。社員から集まった課題をまとめた4つのテーマの下、省エネ住宅の実現や、社会貢献活動などについて、谷川喜一社長にお話を伺いました。

まずは私たちの「檜」へのこだわりからお話します。1972年12月、長崎県の五島にて祖父が営んでいた谷川商事から、その住宅部門を父が独立させ、長崎市にて株式会社谷川建設を設立しました。当時は、戸建住宅ブームで「建てれば売れる」時代の中にあっても、私たちはゼロからお客様の要望をお聞きし、丁寧な家づくりを続けてきました。

特にこだわってきたのが日本伝統である檜をつかった家づくりです。使用するの国内有数の生産地である長野県木曾谷にそびえる木曾檜をはじめとする国産材で、当社は木に対する愛情をずっと大切にしてきました。しかし、木は育てなければいつか尽きてしまいます。木を愛し続けてきた私たちだからできる

社会貢献は何か、未来に向けて何かできないかを考え、SDGsへの取り組みを本格化させていきました。

2020年3月から7カ月間ほどかけて、結成された「SDGs推進委員会」のメンバーが社員にヒアリングを重ねながら、「SDGsでこういうことを取り組んでいきたい」という課題の抽出を行っていきました。そこで



SDGs推進委員会のメンバー

出てきたテーマは、なんと347件にも上りました。

それらの中から重要度が高いものを優先してまとめ、「豊かな地域・社会づくり」「社員が能力を発揮できる組織づくり」「温暖化を抑制する環境づくり」「誠実で透明性のある事業の推進」の4テーマに集約。当社が2030年までに実現する持続可能な開発目標SDGsのテーマと、社員一人ひとりが考え、実行していくことにしました。

事業を通じて実現していく

「豊かな地域・社会づくり」

このテーマで実現するのは、家づくり、街づくりを通じた持続可能な社会の実現への貢献です。人にも環境にも優しい家づくりは、「檜の家づくり」をテーマとしてきた私たちにとっては当然のことですが、よりお客様の安全やその願いを実現することを目指していきたいと考えています。

具体的には、カスタマーサービスの充実をはじめ、お客様の人生に寄り添う「ワンストップ

トータルソリューション」を提唱し、お客様のニーズをより実現していきたいと考えています。その成果の証として、オリコン顧客満足度ランキングのハウスメーカー注文住宅・木造部門の上位入賞といった客観的な評価を獲得することを一つの目標として取り組んでいます。

人がブランドになる会社へ

「社員が能力を発揮できる組織づくり」

社員に向けてどのような人材教育をするべきかを考えた時に、私たちは「人がブランドになる」と考えました。木に例えた場合、これまでは枝や葉の部分である職種ごとの専門性を高めることに注力してきたのですが、もっと幹や根元の部分である人としての成長、コミュニケーション能力の向上など汎用的なスキルを伸ばしていかなければならないと考えました。また、全ての社員が働きやすいワークライフバランスへの取り組み、労働条件の改善を行い、一人ひとりの能力が開花できるよう丁寧に向き合っていきたいと思っています。

省エネ住宅と植林活動で実現する「温暖化を抑制する環境づくり」

これは、当社の家づくりと直結する取り組みになります。一つ目は、省エネルギーや再生可能エネルギー、自然材を利用した環境配慮型住宅のリーディングカンパニーとして、エネルギーの循環型社会の構築に貢献します。

2020年10月の臨時国会で、当時の菅義偉総理が宣言した2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする「2050年カーボンニュートラル宣言」の実現に向けて、私たちは温室効果ガスの排出量を2030年度までに46%削減する目標を掲げ、あらゆる取り組みを始めています。

その一つとして、当社の注文住宅において、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「ZEH」^{ゼッチ}のレベルを上げていくことに尽力していきます。「ZEH」とは、家の断熱性能を高め、エネルギー効率の高い設備機器を利用して消費エネルギーを削減し、太陽光発電などで自らエネルギーを創り、エネルギー収支を概ねプラスマイナスゼロにする経済産業省が推進している事業です。

**Sustainable
Kyushu**



2



3



1



5



4

1.2025年度までにZEH住宅達成率50%を目指す／
2.全戸ZEH仕様の街「エテルナガーデン女の都
(めのと)」／3.地球温暖化防止などの環境問題を
踏まえ稼働した第一ソーラー発電所(長崎県佐世保
市)／4.昨年竣工したMICE施設「出島メッセ長崎」の
施工に参画するとともに、こけら落としイベントで小学
生対象の職業体験イベントを開催／5.地元小学生と
行った植林活動／6.会談中の谷川社長



6



左から谷川社長、溝上支店長(福岡銀行)

谷川建設では、さらに檜の家のメリットをプラスした「ZEH+Tree」を提案しています。檜にはダニやカビ防止となる調湿効果、抗カビ・防蟻、防ダニも期待できる抗菌効果、そして脱臭効果をも持つと言われています。ZEHの力でエネルギー消費を抑え、コントロールするだけでなく、檜が本来の持つ力を活かすことで、快適性や健康面にまで配慮する家づくり、

つまり「ZEH」と「Tree」の両方を活かした「smart wellness house」を提唱し、地球にも人にも優しい家づくりを進めています。

既に、地元である東長崎エコタウン構想の一環で、この「ZEH対応住宅（ENEハウス）」の共同研究を行いました。屋根下地遮熱シート施工や檜無垢柱・フロアなどを採用した自社の特性を活かした建物性能に、太陽光発電や高効率エアコン、オール電化・蓄電池などのZEHの関連機器、風の流れを考慮した設計や落葉高木や芝による日射調整・対策といったパッシブ省エネ手法を取り入れた究極の省エネルギー住宅の実現を目指しているところです。

もう一つの大きな取り組みとして、植林活動などの林業支援を通して地球の温暖化を抑制し、豊かな自然を守りたいと考えています。

近年、森林の高齢化が問題になっており、日本では人工林の半分以上が樹齢50年を超えている状況です。木は樹齢40年を過ぎると、二酸化炭素を吸収する量も頭打ちとなり、光合成が減ると言われています。手入れが行き届かないまま、荒廃してしまった放置林も多く存在して

おり、これが昨今頻発している土砂災害などの自然災害を大きくする要因にもなっています。そんな育ちきった木の手入れをし、新しい木を植え続けることに、少しでも役に立ちたいと、私たちは植林活動を始めました。

これまで、谷川建設では家を建てる際に使った柱の本数分の植林を行ってきました。1棟あたりに使う柱は約100本。これまで建てた家の数は19,000棟以上、建てた棟数に見合う植林を行っています。この活動をさらに、地域の方と一緒に行うべく、2021年11月には長崎県佐世保市世知原にて、地元小学生の皆さんと一緒に400本もの苗木を植えました。これからも、自然への感謝の気持ちを忘れることなく、持続可能な社会の実現を目指したいと思えます。

地域や社会に貢献する

「誠実で透明性のある事業の推進」

この取り組みは、コンプライアンス遵守を徹底し、誠実で透明性のある事業推進を実現するため、諸法令・社内規程を遵守するとともに、



本社前にて

株式会社 谷川建設

- 所在地：
〒852-8115 長崎市岡町9-1
- 電話番号：
095-848-3552
- 事業拠点：
長崎県、福岡県、佐賀県、
熊本県、大分県、鹿児島県、
広島県、東京都



社会規範に沿った責任ある行動をとることを目的としています。社員に対しては、弁護士による相談窓口を設けるなど、相談しやすい職場づくりを進めています。

社外活動については、各行政が行っている「SDGs登録制度」を活用した取り組みを

始めています。実際に子どもたちに「大工体験」を通して、さまざまな仕事を学んでもらうワークショップを開催しています。棟梁、プレカット・工事部の社員が先生となり、「のこぎりで切り」「くぎを打ち」「鉋で削り」「やすりを掛けて」檜の本棚などを制作しています。

これらの取り組みを通して、社内外の人材育成や教育活動支援など地域貢献・社会づくりに取り組んでいけたらと願っています。

現在、FFGが取り扱いを開始した、SDGs取り組みの評価・分析を通じてサステナビリティ活動をサポートする「サステナブルスケールインデックス」の審査を受けているところで、さまざまなアドバイスをいただきながら、より有意義な取り組みになるよう、今後も努力し続けてまいります。